

「進学は知識と仕事の幅を広げる」



(プロフィール)

馬場義晶 氏

所 属 さいたま市民医療センター

勤 続 6年目

卒業校 大宮医師会看護専門学校

* 准看護学校卒業直後に進学

准看護学校通学中から看護師資格取得を考えていたという馬場義晶氏。着実に自らの道を切り開き前進を続けていく秘訣を伺います。

— 社会人経験を経て看護の世界に入られました

8年ほど飲食店の調理師を務めましたが、リーマンショックで将来を考えました。公務員なども模索しましたが、看護師である姉の勧めで看護を選びました。

— 入り口として、准看護学校を選んでいきます

看護を志した時、既に30歳を過ぎていたこともあり、働きながら学ぶことができる方がよいと考えていました。それと同時に、自分が本当に医療の世界でやっていけるのか、リアリティショックがあるのではないかと、そんな不安もありました。そのため、准看護学校を選び、看護助手として働くことで実際の看護師の仕事を感じながら進む道を選びました。遠回りではありましたが、自

分にとって「働くこと」、「看護」とは何かを考える時間になりました。

— ご自身で看護師としてやっていけると感じたきっかけはありましたか

勉強しながら仕事をするという生活は、肉体的にも精神的にもかなり辛いです。その状態の自分が、勤務の時に患者さんと誠心誠意向き合うことができるかが試金石になると考えていました。

— 進学する学校はどんな基準で選びましたか

一番は、働きながら行ける学校です。看護師として働いていた姉にも相談し、県内の学校であり、特待生制度があった大宮医師会看護専門学校にしました。准看護学校の頃から進学を見据えて準備していた学費に、特待生制度と病院のサポート制度を利用して通学しました。

— 准看護学校と看護学校、学びの上での違いはありましたか

解剖生理、災害看護、関係法規など、看護師として踏み込んでいくべき分野について広く深く学ぶことができました。

— 仕事と学びの両立で苦労されたのではないかと思います

勉強時間の確保が一番の課題でした。試験前に休みを連続で取れるようにシフト調整をしていました。また、職場では、上司や周囲の方から空いた時間に「勉強していいよ」などの声をかけていただきました。職場からの支援は、看護師の道を目指す上で大きかったと感謝しています。

— 看護師として働くことで、准看護師との違いを感じることはありますか

事象に対する自分の捉え方が違って来たように感じます。例えば、患者さんの転倒があった際に、その事実を知覚するに留まるのではなく、転倒の

理由はどこにあるのか、それを考えながら対策を施したり、転倒について学んだりするようになりました。また、考えることで、次に同じような患者さんがいらした時のためにノウハウを蓄積しておくことが重要だと認識するようになりました。患者さんの回復や、安心・安全に対して改めて責任を持って臨むようになりました。

—これまでに影響を受けた方はいますか

実習の指導者の方に「どんな事も初めての人は気がつかなくて当たり前。どのような声かけや働きかけであれば気がついてもらえるかを考えるのが大事」ということをおっしゃる方がいました。「気づかなくて当然」「どのように気がついてもらうか」これは患者さんにも言えることだな、と折に触れて思い出します。

—今後のキャリアプランを聞かせてください

看護師として3年目に入りました。5年を過ぎたら認定などを視野にいれていきたいです。今は皮膚・排泄ケアに関心があります。認定をすることで、患者さんの褥瘡のトータルマネジメントができますし、病棟に貢献することもできるようになりたいです。

また、今はまだ学ぶことの多い身ですが、先々は看護教育などにも携わりたいです。新人を見ていると感じるのですが、若い世代は、自分の欲求に率直で、面白いと思えばどんどん吸収していきます。その人が頑張れることを気がつくように促すことができると思います。

—進学を考えている准看護学生・准看護師の皆さんにメッセージをお願いします

お子さんがいたり、長いこと勉強から離れていたりすると不安はあるかと思います。それでも、准看護師から看護師になることで、知識・仕事ともに幅が広がります。母性、精神、災害などなど

道が大きく広がります。それは、自分に合った看護・医療を見つけることが可能になるということでもあります。大変ですが、進学はしたほうがいいです。

—進学後、看護師国家試験受験に向けた勉強方法のコツなどありましたら教えてください

私は進学直後から「看護師国家試験」の勉強を始めました。その方が勉強の目的が明確になりますし、学校で習ったことをすぐ過去問題などで確認することができるので身につけていきます。働きながらの勉強は無駄を省くことが重要ですので、この方法はお勧めします。

働きながら勉強をするのは、自分で自分をマネジメントするということです。辛いこともありますが、得たものも大きい時間でした。

(聞き手：看護を考える委員会 委員長 石川治美)



メッセージ

馬場君はとても真面目で頑張り屋さんです。「看護師になる」という目的を明確にして3年間仕事と学業を両立させ資格を取りました。

悩んでいる方も一歩前へ進んで、是非夢をかなえてください。当センターは卒業までの3年間、看護部全員で支援します。

さいたま市民医療センター
看護部長 山中富美代氏